

せたがや福社區民学会第12回大会報告

せたがや福社區民学会第12回大会は、新型コロナウイルス感染拡大により、初めて Web で開催し、7つの分科会に、高齢福祉・障害福祉・子ども分野の事業所、学生、地域の活動団体などから、48の発表がありました。大会実績をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 開催テーマ：学びあい、広げよう せたがや福祉の輪

「未来につなぐ せたがや福祉のきずな」

2. 開催期間：令和3年1月15日～2月15日

3. 視聴回数：

① 全体会 会長挨拶 長谷川 幹 会長 194 回

区長挨拶 保坂 展人 区長 114 回

基調講演 「未来につなぐ せたがや福祉のきずな ー前例を超える・前例を創るー」

国際医療福祉大学大学院 大熊 由紀子 氏 248 回

② 発表別視聴回数（視聴期間内の視聴回数：単位 回） 総視聴回数 3,512 回

発表番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
第1分科会	64	60	52	48						
第2分科会	84	54	59	40	要旨のみ	要旨のみ	65	75		
第3分科会	48	68	92	63	43	要旨のみ				
第4分科会	56	54	33	40						
第5分科会	72	82	69	60	62	61	79			
第6分科会	114	91	85	80	66	68	85	要旨のみ	要旨のみ	
第7分科会	214	94	437	113	85	要旨のみ	63	131	要旨のみ	213

③ 大会総括 180 回

4. アンケート回収数 22 件

5. 質問数 10 件

6. 意見・感想数 38 件

7. その他 発表事例集、バックナンバーは、せたがや福社區民学会ホームページから閲覧できます

ホームページ URL <https://www.setagaya-jinzai.jp/society>



質問、意見・感想

第1分科会 子ども・若者が輝くまち 世田谷		
1	タイトル	公園の魅力を考える
	所属	東京都市大学人間科学部児童学科 3年 相談援助・社会福祉研究室
	意見感想	公園に関する調査は今後も様々な切り口があるのではないかと気づかされました。親目線で公園の意味等、更に膨らませて子どもにとっての公園の大切さを発信されることをしていただけること期待しています。
2	タイトル	児童養護施設・里親を巣立った若者の再出発と自立を支える場としてのシェアハウス運営ー安心して住むことの出来る居場所の必要性ー
	所属	特定非営利活動法人若者の自立支援すみれブーケ
	意見感想	第11回大会でも発表を拝見し、「よくやっていたらなあ」と感銘を受けたことを覚えている。機会があれば、NPO法人の運営状況について教を請いたいと考えている。
	質問	若者たちがどのような経過で自立につながっていったのか、エピソードを教えてください。
	回答	エピソードですが施設で育ち、言われてすることが多かったのですが、すみれハウスに来て、掃除当番や家事等、次第に自分からするようになりました。 ハウス利用者同士、共同生活ゆえに考え方などの違い、育った環境の違いもあり衝突することもたくさんありましたが、次第に譲ることそして譲らないこと、コミュニケーションを取る方法を学びました。 ハウスから巣立った若者たちには現在の状況や、ハウスにいた頃の感想をいただいています。何年か先には巣立った若者もハウスで集まれる居場所でありたいと思って運営しています。
3	タイトル	幼児期に向けて、主体性を育む保育
	所属	社会福祉法人嬉泉 鎌田のびやか園
	意見感想	子どもの興味関心に合わせ、遊びを提案していくという実践内容が、写真にわかりやすくまとめられており、とても見やすく理解しやすかった。
		子どもの”やりたい”気持ちは、乳児期にあそびのバリエーションなどを増やしていくことで、より活発になるのだと感じた。
	質問	職員同士で子どもに提案した遊びで、うけた、うけなかったと共有し、次の遊びに活かしていく」とありましたが、どんな遊びが子ども達にとってよく響き、どのような遊びはあまり響いていないのか、これまでのケースから何か分かったことはありますか。
回答	区民学会で発表した「洗濯ごっこ」の人形の服を洗うところまでは子ども達に響いたのですが、そこから着せ替え遊びに発展させようときっかけを作っていたところ、こちらは楽しさを感じられなかったようで、発展するに至りませんでした。 他にも玩具を投げる姿があったので玉入れ遊びを行ったのですが、玉を入れる箱を段ボールにしたため箱の中が見えず早々に飽きてしまいました。 また、ボタン掛けが出来るようになり自慢する子ども達がいたので、ボタン掛けやチャックの開け閉めが出来るぬいぐるみを用意したところ、ボタン掛けやチャックの開け閉めよりもぬいぐるみを使ってのごっこ遊びに発展してしまいました。 子ども達の日々の様子から職員が考え遊びを提案してきましたが、響くものもあれば響かないものもあり多くは響かない場合が大半です。響くものでいえば、大人の真似をするこ	

質問、意見・感想

		<p>とや、買い物ごっこ・保育園ごっこ・大きなシャボン玉といった現実ではなかなか出来ない遊びの方が響くように感じています。</p> <p>このことを通して、子ども達が何を楽しいと感じるのかは大人の視点とは異なっていること。また、先入観を持たず、子ども達の興味関心を様々な視点で見ることにより、本当に子ども達が楽しみやりたいと響く遊びが見えてくると学ばせてもらっています。</p>
4	タイトル	子どものまちづくり参画へ誘う「まちづくり絵本」の提案
	所 属	一般財団法人世田谷トラストまちづくり 地域共生まちづくり課 まちづくり事業担当
	質 問	実際の活動を通して、参加者の方の反応を教えてください。
	回 答	<p>ご質問ありがとうございます。</p> <p>これまで子どものまちづくりの参加について当財団でもワークショップなどにより取り組んできましたが、今回の発表は、新たな取組みとして、まちづくりへの絵本活用提案であり、未だ実践の活動を行っておりません。今後、実践の機会があれば、参加者の方の反応も含め、ご報告したいと思います。また、実践の場があれば、ぜひ連携させていただき共同で取り組ませていただけたらと思います。</p> <p>参考： （一財）世田谷トラストまちづくり『参加のデザイン道具箱 Part4 子どもの参加』2002</p>

第2分科会 地域をつなぐネットワーク

1	タイトル	地域の中の福音寮について考える
	所 属	社会福祉法人福音寮
	意 見 感 想	<p>「戦後孤児の支援から始まった」という民間の児童養護の施設があることを、60歳を過ぎて始めて知り恥じている。知識を新にして、どう関わることができるか考えたいと思う。</p> <p>福音寮と卒園後の支援について知りたかったので、特に注意して聞いた。それぞれの場で精一杯やっているようだ。より充実して活動して欲しい。</p> <p>音寮の事例発表を見ての感想です。地域全体で子育てをしていく仕組みづくりが現実的にできていることが素晴らしいと感じました。子供にとって「心理的に安全」と思える場所を地域の人たちが作っていく事が継続してできれば、自己肯定感にもつながると思いますし、その子供の可能性を伸ばすことにもつながると思います。今後も頑張ってください。</p>
	質 問	福音寮で生活している子ども、または、巣立った子どもが福音寮での生活にどのような感想を持っているのか、いくつかご紹介いただけたらうれしいです。
	回 答	<p>今年度の退所者の交流会では、退所後1年の子どもから、40代半ばの卒寮生まで様々な世代の卒寮生が集まりました。その時の巣立った子どもたちの声としては、福音寮がなければ命もなかったという話や、退所してから職員が当たり前に来てくれていたことがなくなって不安になったという話がありました。また、巣立った子どもたちからは職員の勤務の入れ替わりがあるため、いろいろな職員が入る良さや辛さについての話がありました。現在福音寮で生活している子どもたちからの声としては、家庭への思いを抱えながらも福音寮の食事が毎日楽しみであることや、福音寮に来てさまざまな行事が楽しいなどの話があります。最近では小学生の頃から一般家庭でも携帯電話などの所持している同級生が多い中で、福音寮の子どもたちは携帯電話を簡単には所持できない事情もあり不便さが語られることが多くなっ</p>

質問、意見・感想

		<p>ています。子どもたちからのこういった意見を丁寧に聞き取り、高校生からは施設から携帯電話を貸与するなどの対応を取ることなどを始めています。子どもたちの日々の生活に不便さも実際あると思いますが、できる限り子どもたちの声を聞いて寄り添える形を模索しているところです。</p>
2	タイトル	<p>住宅確保要配慮者と地域をつなぐ居住支援 ー住まいサポートセンターの取り組みー</p>
	所 属	<p>一般財団法人世田谷トラストまちづくり 住まいづくり課 居住支援・計画調整担当</p>
3	タイトル	<p>組織の横断的なつながりから生まれる、みどりの地域協働プラットフォームの提案</p>
	所 属	<p>一般財団法人世田谷トラストまちづくりトラスト緑課トラスト緑担当</p>
	質 問	<p>今回のレイズドベッドの取り組みに関わった人数や機関、組織を教えてください</p>
	回 答	<p>里山農園の農業指導アドバイザーの方から、東京農業大学農山村支援センターさんや島根県木材事業者の方などをご紹介いただき、資材調達や技術に関してご協力いただきました。更に、世田谷トラストまちづくりのネットワークから東京建築士会世田谷支部さんにお声かけをし、レイズドベッドの企画・開発をお願いいたしました。これについては、世田谷区さんから教育・福祉農園の主旨に沿うとしてご賛同いただき、資金面での支援をいただいております。実際の組み立てやモックアップの実施には里山農園の区民ボランティアの皆様や、世田谷区社会福祉協議会さん、介護事業者の方々に携わっていただきました。関わった人数は、ボランティアさんが20名ほど、その他の組織はそれぞれ数名になります。</p>
4	タイトル	<p>コミュニティーガーデンを活用したコロナ禍における コミュニティー活動の提案</p>
	所 属	<p>一般財団法人世田谷トラストまちづくり トラストみどり課 トラストみどり担当</p>
5	タイトル	<p>自宅で「自分らしい最期を」ささえるために ーやすらぎサロン共同開催ー</p>
	所 属	<p>社会福祉法人奉優会 等々力の家居宅介護支援事業所</p>
6	タイトル	<p>地域貢献活動継続とその効果</p>
	所 属	<p>社会福祉法人奉優会 デイホーム野沢</p>
7	タイトル	<p>砧地域ご近所フォーラム 10年の歩み</p>
	所 属	<p>砧地域ご近所フォーラム 2021 実行委員会</p>
8	タイトル	<p>コロナ禍に負けないように楽しくすごすために</p>
	所 属	<p>在宅介護家族会 かたよせ会</p>

質問、意見・感想

第3分科会 多様性を認め合う共生社会づくり		
1	タイトル	発達障害に対する社会の認知度 ー生活しやすい環境を作るにはー
	所 属	東京都市大学人間科学部児童学科 3年 相談援助・社会福祉研究室
	意見 感想	一般の大学生でも発達障害について学ぶことでより理解が深まることや、個性と思えることにつながるのだと感じた。発達障害などは、学童期に知る、学べる機会ができていけば良いと感じた。
2	タイトル	ひとりひとりがいきいきと生きるために ー生活を見合う場「活かしあえる道創り」ー
	所 属	デリバリーハウスゆうじや
	意見 感想	「学校自体が、重度障害者が一人暮らしをするイメージをもっていない」というお話が印象深かった。支援者側のイメージで、利用者の可能性を潰してしまうことのないよう、日々支援を意識していきたいと思う。
		素晴らしい発表だと思います。画像ではっきりとご意見を拝聴しました。「重度ショウガイシャがやりたいことを探すことができ、挑戦できる環境が必要だ」というご意見に同感です。まず、このように主張できる実方さんの長い人生経験に基づく主体性に、感動しました。
		厳しい歴史と現実の中にいると思います。互いに「活かしあえる道創り」は、作るというのではなく創るという重い課題ですが、自戒を込めて共に頑張りましょうと私も思います。
		シェアハウスがあることが知られていないと感じた。 認知度を高めていくことで、周囲の理解が支援につながると思った。
	質 問	実方さんが一人暮らしをするにあたり、ご家族の反応はどのようなものでしたか。
回 答	早速ですが、私が一人暮らしを始めたのは、40年ほど前でした。ショウガイの介助制度などほとんどありませんでした。ですから、親は「裕二の面倒はだれが見るの？他人に迷惑かけるからやめなさい。」という感じでした。 私は、自分で大学のボランティアサークル等を廻り、介助ボランティアを集めることにやっきました。規制事実を作ることで、親を説得していくしかありませんでした。	
3	タイトル	双方向で考える共生社会 ー障害当事者の視点から見た地域社会における共生等ー
	所 属	一般社団法人輝水会
4	タイトル	双方向で考える共生社会 ースポーツを通じ気づく支援の在り方ー
	所 属	一般社団法人輝水会
5	タイトル	誰もが住み続けられる世田谷を目指して ートラまちの居住支援のこれからー
	所 属	一般財団法人世田谷トラストまちづくり 住まいづくり課 居住支援・計画調整担当
6	タイトル	生活支援を住民同士の支えあいで実施する市民団体のネットワークづくり
	所 属	生活サポートNPO等協議会

質問、意見・感想

第4分科会 ケアにおける協働・連携		
1	タイトル	介護食のための『野菜の茹で方時間早見表』の試み ー自立した食事と在宅ケアの一助としてー
	所 属	世田谷区生涯大学 43 期 まごころ（孫・子・老）幸せ文化コース
	意 見 感 想	<p>介護食という重要なテーマに取り組みましたことは素晴らしいと思います。また、発表者田口氏より「世田谷区生涯大学」修了記念作品としての研究レポートと CD を頂き、「調理では無く実験」と書かれています、大変な労作と思います。そこには、先生やクラスメイトの方がたとの試食会など、暖かい交流が見えてきます。「野菜の茹で方時間早見表」というユニークな着眼点には驚きましたが、料理と無縁な私もほうれん草で挑戦してみました。大成功でした。</p> <p>私は単なるボランティアですが、食支援の活動が、在宅や地域で、また病院でも実践され、広がりを見せています。市民の会『介護食冊子』のメッセージ「食べることは生きること」に私も突き動かされています。</p> <p>神田先生のコメントにあるように、「口からおいしく食べられることを楽しめる」ことの重要性について、医療・看護・介護・福祉の世界で更に普及することを願っています。発表者田口さん、頑張りましょう。</p>
2	タイトル	「椎の木」 ー懐かしい思い出への架け橋、そしてこれからー
	所 属	日本大学文理学部社会福祉学科 日大パレット
	意 見 感 想	<p>日大パレットのOBです。発表ありがとうございました。現在、私は高齢者介護の仕事をしております。発表を拝見し、自身を省みると、日頃の業務を安全安楽に遂行することばかりに目が行き、利用者様のQOLの向上という視点をお恥ずかしながら忘れかけておりました。改めて、自分自身も大切にしていきたいと気が引き締まる思いです。</p> <p>パレットの皆さんの活動は利用者様の皆さんにとって、施設では味わえない楽しみ、安らぎのひとつとなり、特別な時間をお過ごしことと思います。また、利用者様が外に出て、四季に触れ、地域や社会と繋がることで利用者様の暮らしをより豊かにしています。さらに、パレットの皆さんがゆっくりお話しを聴いてくださったり、孫やひ孫くらいの若い世代の方々と触れたりできるのは貴重な体験です。きっと利用者様の笑顔を作り、心の栄養になっていることと思います。QOLの向上は成果として見えづらい部分ですが、間違いなく繋がっていることと思います。</p> <p>コロナ禍で対面の活動ができない中、学業と両立されながら活動方法を工夫されていることもすごく伝わり、皆さんを誇らしく、頼もしく、嬉しく思います。会えなくても離れていても利用者様に皆さんの活動や思いが届いてほしいなと私も願っています。そして少しでも早く対面で活動できる日がくることを心から願っております。</p>
	質 問	利用者のQOL向上についていくつか具体例を教えてください
	回 答	<p>利用者の方のQOLの向上について、どのようなことがきっかけとなり利用者の方のQOLがあがるのか、私たちの活動の中で何ができるのか、考えながら活動を行っています。</p> <p>具体的な例としては、利用者の方と学生やサポーターの方とのコミュニケーションを通して、多世代とかかわりを持つことがあげられます。</p> <p>また、季節感を感じられるような活動を通して、今と昔の文化の違いに触れたり、日常生活とのメリハリをつけたりすることができるのではないかと考えています。</p>

質問、意見・感想

		<p>その他にも、活動の中で日本の原風景を連想できるような歌を歌ったり、昔から伝わる踊りを踊ったりしています。</p> <p>しかし、上記のような活動内容は、施設生活の中だけでは難しいのではないかと考えています。</p> <p>昔を思い出していただくことや、多様なコミュニケーションを取ることなど、施設生活の中だけでは得難い日常生活における刺激となるような経験を、私たちの活動を通して体感していただくことで、QOLの向上につながっているのではないかと考えています。</p>
3	タイトル	<p>拘縮から発生した褥瘡の治癒、経過について</p> <p>－手指拘縮により親指に発症した褥瘡の治療－</p>
	所 属	社会福祉法人康和会 特別養護老人ホーム 久我山園
	意 見 感 想	<p>褥瘡Ⅳからの治癒とは、素晴らしい闘いでしたね。良かったと安堵します。</p> <p>拘縮防止の観点から、手指や足の温浴を、家族に行った経験がありますが、褥瘡防止にもつながっているといえるのでしょうか。</p> <p>施設全体のケア力の向上へと集約したのも凄いなと思いました。</p> <p>お疲れさまでした。</p>
4	タイトル	<p>認知症 日本版BPSDケアプログラム DEMBASEの活用</p> <p>－ご本人の困りごとに、寄り添い関わるケア－</p>
	所 属	社会福祉法人奉優会 特別養護老人ホーム等々力の家

第5分科会 福祉の魅力向上・発信

1	タイトル	<p>インカムの導入が叶える「働きやすさ」と「サービスの質」の両立</p> <p>－変化しながら 共に生きる We are never working alone.－</p>
	所 属	社会福祉法人友愛十字会 特別養護老人ホーム砧ホーム
	意 見 感 想	<p>介護人材不足が叫ばれる中、「職員の働きやすさ」に着目した取り組みは、介護人材の定着にも大変有効と思います。これらの取組みを発信し、共有することで、介護現場のイメージアップにもつながっていくと思います。ぜひ、区全体で情報共有・発信に取り組んでください。</p>
2	タイトル	<p>訪問介護事業におけるICT化の取り組み</p> <p>－スマートフォンを活用する－</p>
	所 属	社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 世田谷ホームヘルプサービス 烏 山ホームヘルプサービス
3	タイトル	<p>なかまで作った「たまごの家ハッピーかるた」</p> <p>－作って遊んで見えてきたこと－</p>
	所 属	世田谷区介護予防・日常生活支援総合事業 住民主体型地域デイサービス「たまごの家」
	意 見 感 想	作成している風景を拝見したかった。
4	タイトル	<p>コロナ禍における運動不足解消を目的にした体操映像の作成</p> <p>－地域で活動する団体による連携活動－</p>
	所 属	深沢地区社会福祉協議会、日本体育大学 野村研究室

質問、意見・感想

5	タイトル	仲間と一緒にだから楽しい、私たちの旅行 －旅行行事の意味を考える－
	所 属	社会福祉法人せたがや檜の木会 上町工房
6	タイトル	コロナの時代のリモート納涼会
	所 属	社会福祉法人せたがや檜の木会 世田谷区立下馬福祉工房
	意 見 感 想	利用者の皆さんにとって、自分の気持ちを表現できることがとても重要で、工房での行事がそのための大切な機会となっていることがよくわかりました。 この発表を視聴して、リスクを取り除こうとするあまり、生活に制限をかけ、QOLが低下してしまうことがないようにという考え方は障害、高齢など分野を問わず、支援者として大切にすべき視点として再確認することができました。
7	タイトル	福祉の仕事の魅力向上・発信 －世田谷区福祉人材育成・研修センターの取組みから－
	所 属	社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 世田谷区福祉人材育成・研修センター

第6分科会 一人ひとりに向きあった実践

1	タイトル	小規模多機能で支える高齢者の生活 －住み慣れた自宅で自分らしく暮らしていきたい－
	所 属	社会福祉法人こうれいきょう 小規模多機能ホーム三宿
2	タイトル	日中の活動を見直して、よい睡眠につなげよう －“塗り絵”を通して充実した日々を－
	所 属	社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 上北沢ホーム
	意 見 感 想	利用者の意欲を引き出すことは、とても難しいことと思います。新型コロナウイルスの感染拡大の中、大変かと思いますが、これからも様々な取組みにチャレンジしてほしいと思います。
	質 問	日中の活動を見直して、良い睡眠につなげようについて、今回の発表の他、ご本人の意欲がうまく引き出された事例は他にもありますか。また、今現在、アプローチ中の方などおられましたらお教えてください。
回 答	今回発表したフロアとは別のフロア（認知症の利用者の在籍数が多いフロア）で、今まさに取り組んでいるケアがあるので報告します。 対象の利用者は認知症のため、常に眉間にしわを寄せて不安を訴えたり、落ち着かなくなることが入所後から見られていました。なんとか不安なく落ち着いて過ごしてもらえないかとの視点から、フロア内で以下のようなアプローチをしています。 ・ベランダでのお散歩、書道の実施 → これはあまり効果がなかったです。 ・椅子のセンサーを撤去して、出来るだけ食堂内では自由に歩いてもらってストレスフリーの時間を設ける。 → 職員も対応に慣れて、食堂内では見守り（付き添い）フリーになりました。	

質問、意見・感想

		<p>・大好きなご主人からのメッセージや、住み慣れた自宅周りの風景を動画に録って、本人と視聴する。</p> <p>→ 本人の気分によってはとても興味をしめし、笑顔が見られるようになりました。</p> <p>このようなアプローチによって、現在、本人からの発語が多くなり、職員との会話時に話の内容がかみ合うようになっていきます。引き続き本人に関わりながら、生活意欲の向上に努めていく予定です。</p>
3	タイトル	<p>新入職員への離職防止と教育</p> <p>－低離職率を維持している久我山園の取り組みについて－</p>
	所 属	社会福祉法人康和会 特別養護老人ホーム久我山園
	意 見 感 想	<p>介護職のキャリアパスの導入により、離職率が大幅に低下したことはとても素晴らしいことだと感じました。品物を売ったりなどの数値化しやすい職種は、評価しやすいですが、介護職の現場での数値化は難しいものです。評価表を作成し皆が判りやすい形にしたことで全職員が知識や技術等共通認識ができ、その評価が賞与等へ反映され職員の定着へつながったことはとても素晴らしいと評価いたしました。</p>
4	タイトル	生活リズムを整えよう！
	所 属	社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 上北沢ホーム
5	タイトル	<p>プレステップサポート事業について</p> <p>－中途障害者の日常生活をより豊かに－</p>
	所 属	世田谷区立保健センター 専門相談課 障害者専門相談担当
	意 見 感 想	<p>「プレステップサポート事業」を詳しく知り、ぜひ頑張っておられることを願います。</p> <p>私の場合、突然の脳疾患などによる中途障害を全く考えていませんでした。健康診断をやっているので安心という程度でした。しかし、家族がくも膜下出血。まずは、急性期で生き残るか混乱し絶望感へ。やっと高次脳機能障害で回復しても、日常性が一変し、理解できず、家族は消耗の日々でした。障害を受容できない。自力で、ある日突然の中途障害に立ち向かうのは、困難です。NPO 法人の力を借りて、時間がかかりましたが「非日常性を新たな日常性」として受け入れるのに月日がかかりました。</p> <p>「プレステップサポート事業」がメンタル面での第一歩を、同時に専門家集団によるサポート体制を構築して下さることは、非常に重要な活動と実感します。更なるご活躍をお願いします。</p>
6	タイトル	入居者の暮らしに向き合う
	所 属	社会福祉法人緑風会 特別養護老人ホームエリザベート成城
7	タイトル	<p>回想法による認知症緩和の実践</p> <p>－笑顔と発語を取り戻したい－</p>
	所 属	社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 上北沢ホーム
	意 見 感 想	<p>認知症状を抱えている高齢者に対して、過ぎし日々撮った写真などを使った「回想法」によって、ご当人が笑顔や短いながらも発語を取り戻したということに感銘を受けた。</p>
8	タイトル	母子分離に不安を感じるA君への関わりについて
	所 属	社会福祉法人嬉泉 子どもの生活研究所めばえ学園

質問、意見・感想

9	タイトル	本人との交流を通して、人との信頼関係を築き生活の安定を図る
	所 属	社会福祉法人嬉泉 おおらか学園

第7分科会 新しい生活様式における取組み

1	タイトル	人と離れて・心は寄せて ー失語症会話パートナー・コロナ状況下での模索ー
	所 属	失語症会話パートナー世田谷区連絡会（世パネット）
	意見 感想	失語症は、話す、聴く、読む、書くの4つの側面において障害があるものということを初めて学んだ。あまり触れる機会のないテーマだったので、もっと学びたいと思った。 ボランティアでありながらも会話パートナーの皆さんが熱心に活動している様子がよくわかりました。パワーポイントも見やすかったです。 新型コロナ禍で、大変なご苦勞をされたことが、良く伝わる発表だと思えます。 私は、専門的パートナーではありませんが、寄り添ってポイント筆記で、意思疎通をお手伝いした事があります。どの障害も大変ですが、失語症の学習会やお手伝いを通して、特別の大変さを感じています。with コロナでの会話補助技術の工夫には感心しました。対面交流が難しい中、ご健闘を。会話パートナーの存在は、非常に大きいと思っております。
	質 問	失語症会話パートナーの方が、実際にどのような援助をされているのか教えてください。
	回 答	失語症会話パートナーは、多くは 1) 自主グループや訓練グループなどのグループ支援に携わっております。（自主グループは失語症の方々が自主的に集まって活動するもの。訓練グループは失語症の方が複数人でリハビリ訓練を受けるもので、言語聴覚士が指導、失語症会話パートナーは補助的な役割を担っています。） グループ支援では、その場の会話が全員で共有できるよう、失語症会話パートナーが失語症の方々の個々の言語状況に応じて支援します（板書担当は発言・進行内容の要点の板書、メンバー担当は個々のメンバーに付いて発言内容の要点筆記提示、発言補足など）。また、グループのメンバー同士でも会話が円滑に進むよう、失語症会話パートナーは「橋渡し」も担っています。※ そして、数としては少ないのですが、2) 通院など外出時の支援やお話し相手などの個人支援を行う失語症会話パートナーも存在します。 付記： ※失語症のある方の症状が人により千差万別なので、失語症のある方の人数と会話パートナーの人数は同数以上が望ましい。 ★会話パートナーはボランティアのため、遠方の活動に参加する際の交通費負担が課題となっています。 ★2018年より公的な資格として養成が始った「失語症者向け意思疎通支援者」は、世田谷区の場合、2)の個人支援をメインとして担う方針と聞いています。
2	タイトル	新しい生活様式?! ー知的障害のある方の通所事業所で今考えることー
	所 属	社会福祉法人せたがや檜の木会 上町工房

質問、意見・感想

意見 感想	見 想	<p>知的障害のある方々が通われている施設ということで、今年度コロナの影響で今までとは違う生活様式を、どのように利用者の方々に受け入れてもらえるかという所がとても勉強になった。また違うことばかりではなく、“いつも通りの通える場所”というのも、利用者のみなさんにとっては、大切な支えになっていたのだと感じた。</p> <p>コロナ禍でもいきいきとされている利用者の皆さんの表情が印象的でした。</p>
質 問	問	障害特性に合わせたという点について、いくつか具体例をお教えてください。
回 答	答	<p>今までしていなかったこと、新たなことを始める際、「こうしましょう」というだけでは、認知面での理解の難しさや、変更自体の受け止めの難しさ等、障害ゆえの様々な理由から、そこに応じることが難しい方もいます。ですので、まずはすぐにできないことを否定するのではなく、その要因を考えて、どのような配慮ができるかを考えています。</p> <p>分からないこと、出来ないことに対して、『ダメです!』『〇〇できないと〇〇できませんよ』等の注意や強要では、不安や不快さを強くすることになり、より受け止めが難しくなることもあります。お一人おひとりの状況をよく理解し、その方に合わせた伝え方や方法の工夫、少しずつゆっくりと取り組む姿勢が必要と考えます。</p> <p>例えば、マスクの着用が難しい方への配慮は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防のためにマスクをするという説明では、その必要性を理解しづらいのであれば、より具体的に、ご本人の分かりやすい言葉で、マスクが必要な意味を丁寧に伝えて依頼する。 ・必要性は分かっている、どのタイミングで着けたり外したりすれば良いのか分からない、着けることを忘れてしまうという方には、その都度、繰り返しお伝えし依頼する。 ・不快さで着けられない方には、マスクの素材や種類を色々変えてみる、短時間ずつ着けて少しずつ慣れていただくことにトライする。 ・皮膚の過敏さや感覚的に難しい方には、マスクに変わるもの、マスクなしで安心して過ごせる環境を整える。等があると思います。 <p>同様に、「ソーシャルディスタンス」「距離をとる」ことが難しい方へは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な立ち位置、座る場所を絵や図で分かりやすく掲示する。 ・距離が取れるような配置、環境設定を予めしておく。 ・その都度、繰り返し丁寧に依頼する。等があると思います。 <p>また「不要不急の外出の自粛」ということに対しても、一般的には一見、「不要不急」に感じられたとしても、その方にとっては一大事、必要事項なのかもしれないという捉え方や配慮。反対に、心配で家に引きこもってしまいがちな方に対しては、外出自粛の伝えだけよりも、どのようにしたら外に出られるのか、どこだったら、どのくらいの時間だったら安全かなどの伝えで心身の健康を保つ配慮、等が挙げられます。</p>
3	タイトル	<p>今こそ地域住民とつながり続けよう</p> <p>ーコロナ禍における地域包括支援センターの取り組みー</p>
所 属	属	社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 松原あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）
意 見 感 想	見 想	<p>松原あんしんすこやかセンターの取り組みは、素晴らしいと思います。コロナの中でハガキを使って安否確認や課題を見つけるという発想は、このような状況の中で大変有効です。今後 Zoom 等を使つての活動もあり得るのではないのでしょうか。</p> <p>色んな可能性が開ける予感がしました。</p>

質問、意見・感想

	<p>参加はしていません。youtube を拝見しました。コロナ渦で「しようがない」で済まらずに、できることを探し、万全の準備で行動に移していった姿に、大変心動かされ、勇気をいただきました。</p> <p>ハガキ大作戦の5つのフェイススケールで今の気持ちを尋ねる点に感銘を受けました。言語化するのが難しい気持ちもイラストによってわかりやすく、答えやすく、親しみも感じられて、とても良いアイデアだと思いました。</p> <p>発表を拝見させていただき、ありがとうございました。</p>
<p>質問</p> <p>回答</p>	<p>大変多くの視聴がありました。どのように周知しましたか？ 実際にご意見・ご感想は寄せられていますか？</p> <p><主な周知方法></p> <p>地区住民やボランティアなどの力を借りながら作成した発表動画を、1ヶ月にわたりウェブ配信できることは、コロナ禍における地域の様子を、様々な人に知っていただける絶好のチャンス、と私たちはとらえました。</p> <p>一人でも多数かつ多様な方々に視聴いただけることを目標に、独自に行った周知としては、大きく次の2つです。</p> <p>1) <u>視聴の呼びかけ</u></p> <p>①「松原あんすこ通信」(約2千部発行)に掲載。またこの通信は法人ホームページに掲載。</p> <p>②独自の案内チラシを作成し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内、地域内、区内、区外の会合や地域活動等に出向き、呼びかけ。 (相手は、行政や社協等の関係職員、地区内全民生委員、地区内全町会自治会役員、あんすこボランティア等) ・個別訪問時に持参し呼びかけ ・センター入口壁面及びセンター内に常時掲示。 ・各職員が、家族親族や知り合いなど、できるだけ広範囲かつ福祉に普段縁が薄いと思われる世代の方々や異分野の勤労者などにも意識しながら、各々声かけを行った。 <p>2) <u>視聴方法の案内、フォロー</u></p> <p>視聴方法の問合せを受けたことにより、独自に案内チラシを作成し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター入口に常時掲示及びチラシの配布 ・法人ホームページに掲載。 ・各種会合で配布。質問対応。 ・操作方法に関する来所や電話の問合せに個別対応。 ・個別訪問先に持参し説明。 <p>その他、動画を視聴した自治会役員の方からの申し出があり、<u>地区内自治会ホームページに、発表視聴の呼びかけ記事を掲載していただきました。</u></p> <p><直接受けた感想や意見></p> <p>多数いただきました。</p> <p>1) <u>関係機関等からの、取り組み内容への感想、意見</u></p> <p>2) <u>さまざまな立場の方からの、あんすこを初めて知った等の感想、意見</u></p>

質問、意見・感想

		<p>(職員が呼びかけた方々からの感想や意見は記録し全員で共有)</p> <p>特に、</p> <p>3) 地区住民から、来所や電話での感想、意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作ができ視聴できたという地区住民からの喜びの報告 ・民生委員、町会自治会役員から、各地区で開催している「ふれあい松原」に関する感想 ・あんすこボランティアから、家族全員で視聴し、自分の行っていることや地域の様子を知らせることができたといった感想 ・コロナ禍でもあんすこがいろいろ工夫をしていたことを知り、安心感をもったという感想 ・発表に辿り着くまでいくつも操作が必要で、わかりにくかったという感想などです。
4	タイトル	コロナ禍における福祉輸送の実状と取組み
	所 属	世田谷区福祉移動支援センター「そとでる」
5	タイトル	多事業所連携による「暮らしの保健室」運営とオンラインへの取組み
	所 属	医療法人社団創福会ふくろうクリニック等々力 社会福祉法人大三島育徳会 二子玉川あんしんすこやかセンター 東京ロイヤル株式会社 ロイヤル入居相談室二子玉川相談室 Lo. Co. 訪問看護 事業推進部
6	タイトル	新しい生活様式 デイサービスができること
	所 属	社会福祉法人奉優会 デイホーム奥沢
7	タイトル	等々力地区 町会長 ZOOM 会議に向けて
	所 属	等々力地区町会連合会 世田谷区社会福祉協議会 玉川地域社会福祉協議会事務所
8	タイトル	世田谷ケアマネジャー連絡会からの報告 ーアンケート調査からみたコロナ禍におけるケアマネジャーー
	所 属	世田谷ケアマネジャー連絡会
	意 見 感 想	<p>文書では、少し不明な点が、画像で、情報量の多さもあってよく理解できました。新型コロナ禍で、在宅の方への、ケアマネジャーさんのご活躍が、ご苦勞が伝わりました。大熊先生が「デンマークで〜〜訪問看護婦は名探偵ー日本ではケアマネジャー〜〜」と言われたように、在宅介護態勢の要は、ケアマネジャーさんにあると私の経験からしても断言できます。</p> <p>偶然と言うか、情熱な方なので必然で、発表の画像（音声）で、かつてわが家の在宅介護態勢の要を担ってくださった、ケアマネジャーさんと声で分かり、嬉しかったです。</p> <p>厳しい状況にありますが、ケアマネジャーさん方の闘いにエールを送ります。</p> <p>ケアマネジャー連絡会の発表についての感想です。新型コロナウイルス感染症の影響から、在宅と施設の介護にかかわる皆さまのご苦勞がよくわかる発表でした。特に身体機能の低下と人との関わりがどうしても相互関係が強く、今後も続くコロナ禍での課題として残ってい</p>

質問、意見・感想

		く事がよくわかりました。大変な時期がまだ続きますので、介護職の皆さまのご健康も心配になりました。
9	タイトル	Withコロナ 特養でのボランティアとの関りについて
	所属	社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム芦花ホーム
10	タイトル	新しい研修様式の報告 －世田谷区福祉人材育成・研修センターの取組みから－
	所属	社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 世田谷区福祉人材育成・研修センター

全体 意見・感想	
一般財団法人世田谷トラストまちづくりの各担当、あるいは当学会の事務局をお務めくださっている世田谷区福祉人材育成・研修センターの日頃の活動、ご努力にも深謝する。来年の今頃は、このような状況ではないことを心から願っている。	
自分自身の仕事を振り返る良い機会になった。	
職員同士で話し合う良い機会となった。	
様々な発表をパソコンひとつで見ることができるというのは、とても画期的だった。足を運ぶことが難しい方のためにも今後も続けていただきたい。	
介護を終えた方同士の交流の場というのもとても大切では、と思いました。	
紙面だけでは伝わらないと思ったが、どの発表も動画なども使ってわかりやすく、良かった。地方で働いている卒業生も視聴でき学べたという意見もあった。学会を周知する意味で、一般の方も自由に見てもらえるのは、情報発信の場としても有効だと思う。もう少し広く知ってもらえるかというのが今後の課題だと感じる。	
大学での開催だと並行して色々あり、見られない発表があったので、Web開催は良かった。一方、一堂に会しての対面での開催も捨てがたいので、来年度どのようにするか、コロナが収まると思われる22年度以降はどうするか、両方の良さを生かした開催方法がよいのではないかと思う。	
動画をつくることで、施設支援の説明責任や可視化は進み、広く知られていくというのは施設のブランディングにつながり、現場の人に発表を促すのは良いと思う。発表は会員しかできないが、学びのために学会の会員になっていたのが、動画で見られるから…と会員が減らないようにすることも大事だと感じた。	